

多発する転倒災害！

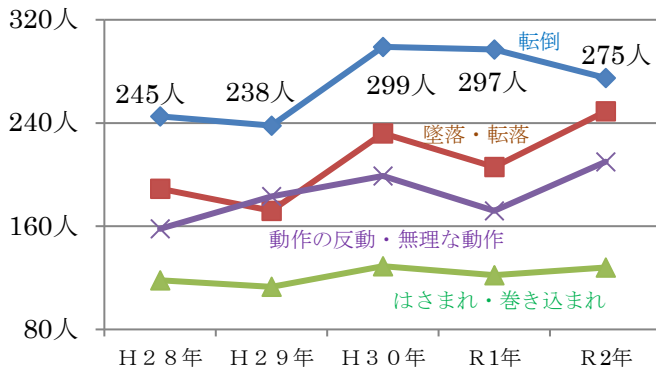


～・～職場での転倒災害を減らしましょう！～・～

休業4日以上の労働災害のうち、転倒で被災の方が最も多い状況（21.4%）です。特に高齢者が転倒した場合は重症化する割合が高くなっています。

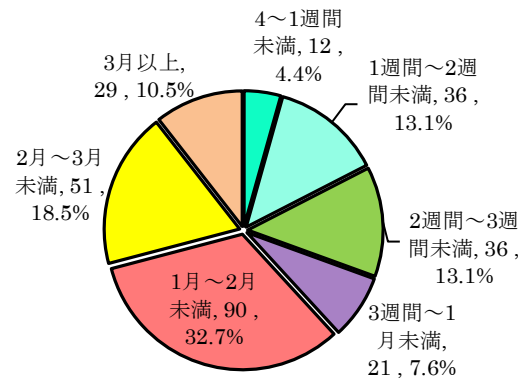
転倒災害が最も多く発生

〔事故の型別 労働災害発生状況 〕



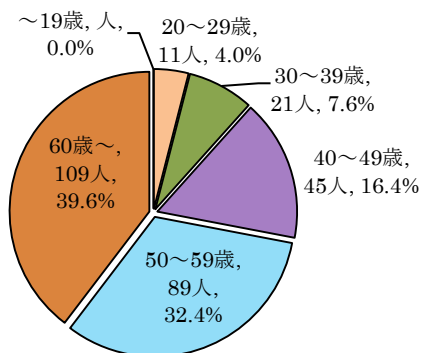
転倒災害は重症化しやすい

〔転倒災害の休業見込 令和2年 〕



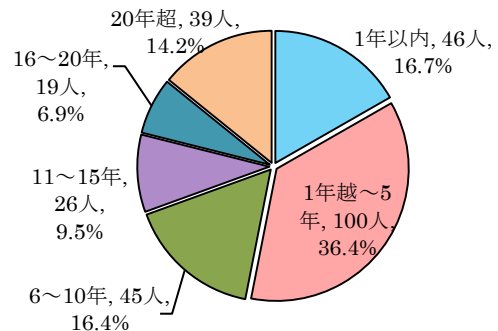
50歳以上が約3/4

〔転倒災害の被災者年齢構成 令和2年〕



経験年数1年未満が約1/6

〔転倒災害の被災者経験年数 令和2年〕



《資料：佐賀労働局 労働者死傷病報告》

転倒災害の種類と主な原因




▶ 転倒災害は、大きく3種類に分けられます。皆さまの職場にも、似たような危険はありませんか？

滑り	つまずき	踏み外し
<p><主な原因></p> <ul style="list-style-type: none"> 床が滑りやすい素材である。 床に水や油が飛散している。 ビニールや紙など、滑りやすい異物が床に落ちている。 	<p><主な原因></p> <ul style="list-style-type: none"> 床の凹凸や段差がある。 床に荷物や商品などが放置されている。 	<p><主な原因></p> <p>大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態で作業している。</p>




転倒災害防止対策のポイント

▶ 転倒災害を防止することで、安心して作業が行えるようになり、作業効率も上がります。できるところから少しずつ取り組んでいきましょう。

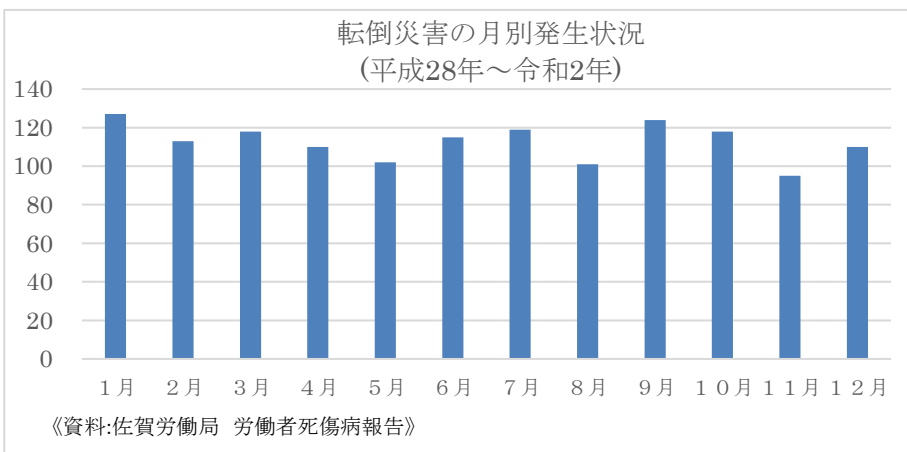
4S (整理・整頓・清掃・清潔)	転倒しにくい作業方法 「あせらない 急ぐときほど 落ち着いて」	その他の対策
<ul style="list-style-type: none"> 歩行場所に物を放置しない 床面の汚れ（水、油、粉など）を取り除く 床面の凹凸、段差などの解消 	<ul style="list-style-type: none"> 時間に余裕を持って行動 滑りやすい場所では小さな歩幅で歩行 足元が見えにくい状態で作業しない 	<ul style="list-style-type: none"> 作業に適した靴の着用 職場の危険マップの作成による危険情報の共有 転倒危険場所にステッカーなどで注意喚起 

<転倒しないための靴選びのポイント>

サイズ	小さすぎても大きすぎても踏ん張りがきかずバランスを崩しやすくなります。	
屈曲性	屈曲性が悪いとすり足になりやすく、つまづきの原因になります。	
重量	重すぎると足が上がりにくくなり、つまづきの原因になります。	
重量バランス（前後）	つま先方向に重量が偏っていると、歩行時につま先が下がり、つまづきの原因になります。	
つま先部の高さ	つま先の高さが低いと、ちょっとした段差にも、つまづきやすくなります。	
靴底と床の耐滑性のバランス	作業場所や内容に合った耐滑性であることが重要です。例えば、滑りにくい床に滑りにくい靴底では摩擦が強くなりすぎてつまづきの原因になります。	

靴選びのポイント

▶ 過去5年間における発生件数では時期的に大きな差はありませんが、**冬季**は積雪や凍結による転倒災害のリスクが高くなります。



- ・撥水性・防水性：水分が靴の中に入り込まないこと
- ・保温性：靴の中を温かく保てること
- ・サイズ：足のサイズにあった靴を選びましょう！
- ・防滑性：靴底が滑りにくいこと（やわらかいゴム底（路面に対する密着力が強い）のため）のものは、ゴムがすり減っていないかもしっかり確認しましょう）
- ・つるつる路面は、小さな小幅で足の裏全体をつけて歩く（すり足）が有効。